

再生医療で事業拡大目指す

「細胞治療プラットフォーム」を活用

創薬ベンチャーのジーンテクノサイエンス(GTS)、4584・東マ)は再生医療分野での事業拡大を図る。

同社は北海道大学発のベンチャーとして2001年に創業。バイオ新薬の研究開発とバイオシムラー(バイオ医薬品の後続品)で事業基盤を築き、12年に上場した。従来より手

そして、さらなる事業拡大を目指して重要な成長産業である再生医療(細胞治療)分野で事業展開を進める。

1月にはセルテクノロジ(非市場)を完全子会社化することを発表した。セルテクノロ

ジとは、歯の内部に存在する歯髄と呼ばれる細胞を用いた幹細胞の製造技術を確立。この歯髄幹細胞を利用した新しい医療技術や再生医療等製品の開発および開発支援を行っている。現在では全国約2200施設の歯科クリニックと連携し、国内初の歯髄幹細胞保管事業を運営する

GTSでは、セルテクノロジーが持つ歯髄間細胞治療プラットフォームに自社の研究開発の経験・ノウハウを掛け合わせ、以下の実現を目指す。①多様なパートナーとの提携拡大②新しい製品・治療法の開発加速③より高いレベルのソリューションを早期かつ安定的に患者に提供。

また、GTSは同じノリツ鋼機グループの日本再生医療(JRM)と資本提携しており、JRMは小児心臓内幹細胞を活用した再生医療事業を展開している。

GTSは「歯髄幹細胞」「心臓内幹細胞」の両細胞治療プラットフォームを、再生医療分野で幅広く事業展開していく。

ジーンテクノサイエンス

患、難病に加えて小児疾患を重点的なターゲットと定め、新薬のみならず新たな医療の開発・提供に取り組んでいる。

一方で、大手製薬企業や大学などの研究機関と連携し、歯髄幹細胞を用いた再生医療の実用化に取り組んでいる。